

「少欲知足」とは仏教用語で「欲は少なく、足るを知る」という意味である。際限のない過度の浪費を戒め、自らの分限を自覚し、足るを知るといふ生活の規範であった。

論壇

戦後の日本経済は景気向上のため、物欲を喚起し、物質的豊かさを希求してきた。その経済の仕組みが、利益の少ない農林水産の第1次産業を衰退させ、工業を中心とした経済システムを構築した。このため、膨大なエネルギーの消費が必要となり、原発の推進に至ったのである。そして、思惑通りに物質的な豊かさを甘受できるようなになった。

「少欲知足」もう一度

中 洞 正

しかし、その有史以来、数万年にも一方、地わたり民族の継承の基

を破壊するにいたったときである。

いち早く、原発ゼロを破壊された。はらわた

方経済は衰退し、山は盤となった。この環境破壊は、伝言をしたドイツではの煮えかえる思いである。

荒れ、田畑は放棄され、その長きにわたる日統的な生活規範であった自動車産業従事者よりの

日本民族の源泉とまで本民族の歴史から見れた「少欲知足」という林業従事者が多い。(宮古市 酪農家・東

いわれた山村集落は限ば戦後の工業による隆金言を忘却のかなたに先進国といわれる国京農大客員教授 59

史でしかない。戦後の

大国でもある。その国

なり、原発の推進に至

日本民族は、かつて工業を中心とした経済

いまこそ「少欲知足」々は、環境と食料の重

味である。際限のない

山、川、海を守り、田システムは、先人たちの飽要性を国是としてい

る。

そして、思惑通りに

畑を守ってきた。それが守り続けてきた第1くなき資本主義と結び

る。

物質的な豊かさを甘受

らが食料の供給を行次産業を崩壊させ、つづいた戦後経済を改

田畑という先人が守り

るを知るといふ生活の

い、水源涵養の働きを

いには原発事故によつて完膚なきまでに国土第1次産業を中心とし

規範であった。

になった。

し、国民と国土を守り、て完膚なきまでに国土第1次産業を中心とし

規

た経済システムにその務めである。

パラダイム この先人たちから受

を変革する

け継いだ貴重な財産が一瞬にして原発事故で

を破壊された。はらわた

の煮えかえる思いであ

る。

(宮古市 酪農家・東

京農大客員教授 59

界集落と揶揄されるよ盛は、ほんの一時の歴捨て去ったことに起因々のほとんどは、農業(歳)